

入賞

逆境がつないでくれたもの

福岡大学 経済学部 4年 河野隆朗

「そこをなんとかお願いできませんか。」

「出来かねます。そういう決まりです。守っていただかないと困ります。」

あつさりと断られてしまった。どうしよう。

私が所属している大学のオーケストラ部のコンサートの会場の予約のために、ホールの担当者と同面談をしたときのことだ。私たちは、コロナ感染対策でステージに乗れる人数が制限され、部員四十名弱が一緒に乗ることができないという問題に直面していた。感染対策や検査を実施して何とか制限を撤廃してくれないかとお願いましたが、やはり断られた。在学四年間のうち数回しか味わうことのできない演奏会のチャンスをこんなにも簡単に失ってしまった。やり場のない怒りに震えた。

演奏会の中止が決まってしまうに次の演奏会に向けて動き始めた。しかし、次回は十一月。感染が爆発ししやすい時期の開催に不安が隠せなかった。コロナの影響はコンサートの開催だけでなく、新入生の入部数にも影響を与えていた。部員は減少傾向にあった。そのような状況ではあったが近隣の大学オーケストラも一年近く演奏会を開催できておらず、お互いに助け合うようになった。エキストラやスタッフとして多くの学生が集まり協力し合った。大学生だけではなく、社会人の方も参加して下さり、多種多様な人が集まった。音が厚くなくて、今までにないほど遠くまで届く美しい響きが生まれた。人々のつながりを通じて私の音楽への情熱が再び燃え上がった。

迎えたコンサート当日。演奏は大成功。たくさんのお客様に拍手をいただき、今日まで苦悩した日々、会場で断られたあの日の出来事がすべて報われたような気がした。「久しぶりにコンサートに来ました。日常が戻ってきていることを実感しました。」演奏後のアンケートにこうあった。顔はわからないがきつと良い顔で帰っていただけに違いない。厳しいコロナ禍でも音楽が多くの人と私をつないでくれた。この日々は私の一生の誇りだ。